

令和5年度 第1回 東小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年5月15日（月） 午前9時から午前10時40分まで
- 2 開催場所 東小学校 1階 会議室
- 3 出席委員 高木 邦子、小名木 秀雄、松下 克幸、今中 秀裕、中川 清子、  
中村 将義、杉山 晴康、大脇 加名、竹山 有希
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 大石 泰三（校長）、杉山 章子（教頭）、  
船越 裕康（CS担当教職員）、原 真衣子（CSディレクター）
- 6 教育委員会 鈴木 陽子（教育総務課）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 原 真衣子
- 9 議長の選出  
司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、杉山委員から小名木会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
  - （1）学校運営の基本方針について
  - （2）東小いじめ防止基本方針について
  - （3）夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について
- 11 会議記録  
司会のCS担当教職員から、委員総数9人のうち9人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）学校運営の基本方針について

■ 説明（校長）

- 学校教育目標である『やさしさ 元気 夢いっぱい』に向け、昨年度の反省をふまえて取り組んでいく。
- 『やさしい子』を育てる。時と場を考えた挨拶を進んで行えるよう声掛けをしていくことに加え、ピアサポートを活用していく。ピアサポートは、子どもたちの集団の中で、お互いを認め合えるように促す活動である。みんなが自分の意見を発信し、お互いの意見を認め合うことで、安心して自分の意見を述べられる本気の対話を全員が行えるような雰囲気を作っていく。
- グランドデザイン『やさしい子 進んで学習する子 元気な子』のそれぞれの目標に対して、重点を2つずつあげている。最終目標に向け低学年のうちから成長段階に応じて段階的に達成目標を立てていく。各学年ごとに目指す子供像、実態、手立てを考え、学期ごとに振り返りを行うことで、計画的に進めていく。

## ■ 熟議

- 挨拶をする、宿題をするといった、やるべき事を当たり前に行えるようにしたいが、ギブアンドテイクでないと反応が薄い。良い条件付けがあると、子どもたちの意識も高まるのでは。(松下委員)
- どんな子でも素晴らしい一面を持っている。褒められることが少しあるだけで違う。声掛けが大事である。(中川委員)
- コロナ禍で活動が制限されている中であったが、その枠の中で子どもたちは精一杯頑張っていた。制限が明けた後、どのように変化していくか見守りたい。(中村委員)
- 具体的なフィードバックが重要で、物より褒め言葉が大切である。誰かが褒められたという事を先生方も知っていることが大事なのではないか。また、子どもたちは相手が傷つかない言い方を考えて、自分の意見を言うということはとても大切である。(高木委員)
- コミュニケーションスキルを身につけるのが難しい。相手が嫌だろと思うと何も言えない子もいる。いいところを見つけるのは大事だが、粗探しになっていじめにつながらないよう配慮も必要。(今中委員)
- 親は子供をきちんと認めているのか、またきちんと褒めているのか。認められていると子どもたち自身が感じられることが重要では。(杉山委員)
- 学校へお褒めの言葉をいただくことがあるが、そのときはすぐに本人に伝えるようにしている。例えば、元気に挨拶してくれたとお褒めの言葉があったと知ると、それが周りの子にも広がって他の子ども達もやり始めるといった効果がある。(校長)
- 子育てが一段落して思うのは、もっと子供を褒めたら良かったなということ。地域に子供のことをよく見て褒めてくれる人がいた。そういう人が地域にいと、子供たちにとっても良いのではないか。(大脇委員)
- 挨拶してもいいのかなとためらっている子がいるように感じる。こちらから挨拶すれば返してくれるが、なかなか自分から言えない子がいるのも事実。(竹山委員)
- 以前は地域みんなで子供を気にかけていた。今は自分の子供以外に無関心になってしまっている気がする。浜松祭は地域の見守りにもなり、評価もしてあげられる場にもなっている。地域が密になっていきたい。(杉山委員)
- 学校での体験活動が多くあるといいのではないか。今は親が与えなければ子供が様々なことを体験する機会が少ないように感じる。(中村委員)
- 親や学校が準備しすぎると、子供が受け身になり、待っているだけの子になってしまうこともある。バランスが難しい。(高木委員)

## (2) 東小いじめ防止基本方針について

### ■ 説明 (校長)

- いじめはいつでもどこでも起こりうるという意識を常に持ち、子どもたちの様子を見て対応・判断していく。今まではただのけんかかと判断していたものも、本人が苦痛を感じている場合はきちんと聞き取り等をして基本方針に則って対応する。
- 未然防止への取り組みは、道徳の時間の活用、ピアサポート活動を行うことで、子どもたちがお互いを認め合える雰囲気を作っていく。

- いじめの早期発見では、常にアンテナを高くし、目を配ることが重要であると考えている。また、生活アンケートに加え、今年からは教育委員会のタブレットを使用したアンケートを導入し、対応が必要な子がすぐに分かるようにする。アンケートについては、家と学校それぞれで実施する。
- いじめへの対応は保護者の方も気になる点であるため、どのようにいじめに気づき、調査を行うのかを発信している。

■ 熟議

- 学校の中だけでなく、地域や家庭でいじめが分かることもある。そういった情報を学校と共有していくことが重要である。(今中委員)
- いじめの兆候などの情報を、地域や家庭からも学校に寄せてほしいということを伝えていってはどうか。(高木委員)

(3) 夢育やらまいか事業CS加算分に対する意見書について

教頭から、子どもたちの体験活動に使っていく計画であると説明があった。子どもたちが地域へ出向いて体験学習を行う、また学校に来ていただいて体験学習を行う機会を設定していくことを確認した。

○ 学校支援コーディネーターからの報告

クラブ活動の講師を新たに4名地域の方をお願いした(囲碁・工作・パソコンクラブ)。活動は6月から始まる予定である。

○ その他

司会から、次回会議は、令和5年6月14日(水)午後1時20分から東小学校会議室で開催する旨の報告があった。当日は参観会があるので、子どもたちを直接見ていただけるいい機会であると考えている。

次回議長については、会長から中村議員を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。